2019 年度 Educational Support「教育助成」公募詳細

公募テーマ：最新の尿路上皮がんの診断・治療に関する知識向上

目的	尿路上皮がん治療に係る方々が、尿路上皮がんの病態及び最新の治療オプションを理解し、患者さんへ最適な治療を届けるため、医療関係者の知識・スキル向上を目的とした、以下の教育活動に対し支援を行います。 ■ 尿路上皮がん治療における知見のアップデート促進 ➢ 海外データ等の最新知見習得 ➢ 従来の化学療法剤と免疫チェックポイント阻害薬の適正使用促進 等
背景	尿路上皮がんとは腎盂、尿管、膀胱、尿道からなる尿路の上皮粘膜に発生する腫瘍です。尿路上皮がんの約 90 %が膀胱がんであり、患者数が泌尿器がんの中では前立腺がんに次いで多いのに対し、腎盂・尿管がんは 5 %程度と少ないため、エビデンスに乏しいのが現状です [1)]。わが国における疫学データによると、尿路上皮がんは 50 歳代以降に発症しやすく、男性のほうが 2-3 倍多く認められます [2)]。症状は血尿や排尿障害が多く、初期であれば 5 年生存率が 90-100 %と予後は良好ですが [2)]、浸潤がんで、すでに進行した状態で発見されるケースもしばしばあり、予後不良です。また、前立腺がんのように特異的かつ有用なバイオマーカ―も存在しません。男女ともに患者数は年々増加傾向にあるため、診断や治療に関するエビデンスの蓄積、治療の標準化が今後さらに必要となることが予想されます。 尿路上皮がんは腎盂、尿管、膀胱、尿道を含めた尿路内腔全体に空間的、時間的に多発する特徴を有します [1)]。遠隔転移がなければ外科手術による治療が選択されますが、転移がある場合や術後再発があった場合は、全身化学療法が選択されます [3)]。現在では、化学療法のレジメンとして標準療法とされるいくつかの選択肢はあるものの、根治を期待することが困難と判断された場合には、日常生活上の QOL を維持した延命、症状緩和や Best Supportive Care へ移行することも多く、長期延命や完治などの十分な治療成績は得られていません [1), 3)]。近年、転移性尿路上皮がんに対して国内では初となる免疫チェックポイント阻害薬が承認されました [4)]。また、複数の新規治療薬が開発されており、今後国内での尿路上皮がんの治療成績の向上が期待されています。
活動の形式	イベント、セミナー、ワークショップ、オンラインコース 等
活動の対象者	医師、薬剤師、看護師等、尿路上皮がん治療に携わる医療関係者
参照文献等	1). 日本泌尿器科学会 編. 腎盂・尿管癌診療ガイドライン 2014 年版. メディカルレビュー社, 2014. 2). 国立がん研究センター. がん情報サービス, がん登録・統計 3). 日本泌尿器科学会 編. 膀胱癌診療ガイドライン 2015 年版. 医学図書出版株式会社, 2015. 4). Bellmunt J et al. N Engl J Med 2017; 376: 1015-1026